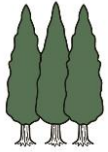


サステナビリティ社会における 森と企業の新たな関係性について



TAJIMA FOREST

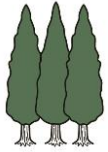
会社名 : 田島山業株式会社
役員 : 代表取締役 田島信太郎
従業員 : 11名(役員含む)
資本金 : 1,000万円
住所 : 大分県日田市中津江村合瀬3573



田島山業株式会社 統括本部長 田島大輔



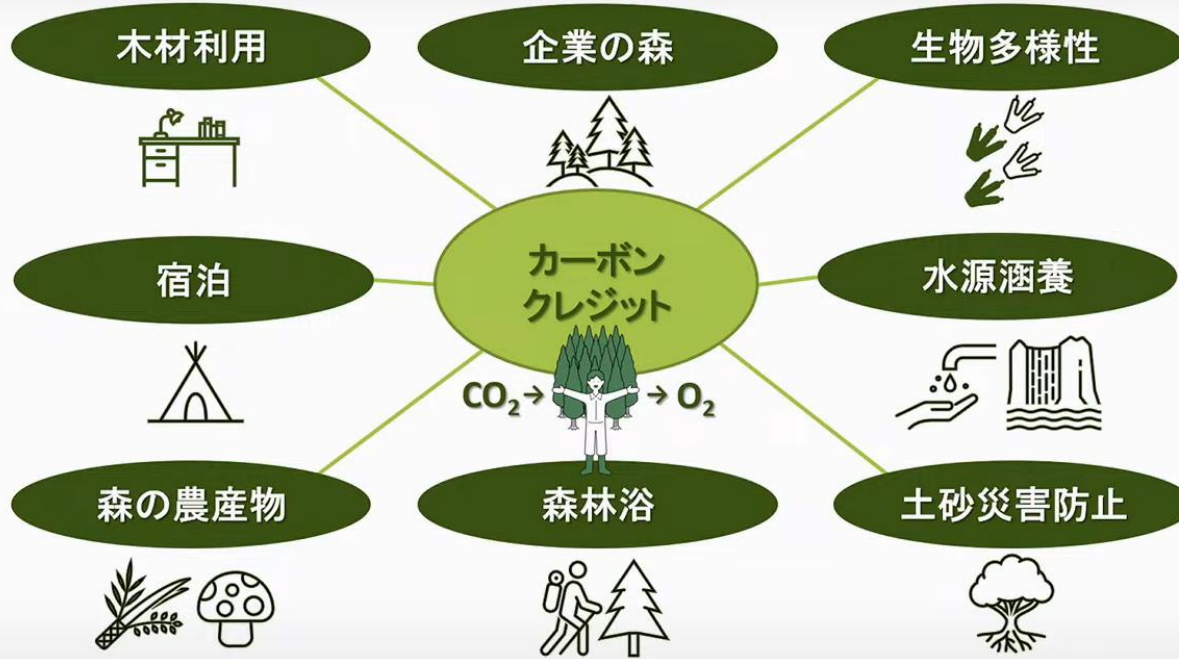
- 12年 大学卒業後、大手メーカーに就職し、生産現場、経理を学ぶ
- 17年 家業の林業会社へ
 - 「素材生産」だけでない「山業」の可能性を模索
- 20年 令和2年7月豪雨で被害を受けるも、前を向くしかないと
 - J-クレジットを独学し、自力で申請
- 22年 GXリーグ「基本構想賛同企業」当初より参画
 - 「アツギ甲子園」ファイナリスト、大分県庁「GUSH!」1期生
- 23年 だいきんニュービジネスプランター「特別賞」
Newspicks「New Door」出演
大分県庁「Oita GROWTH Ventures」1期生
大分県 新長期総合計画策定「未来創造部会委員」選出
 - 環境省「自然共生サイト」に初年度登録



■ 中小企業庁主催 アトツギ甲子園 2023.03.03

第3回「アトツギ甲子園」決勝大会

脱炭素×森の未来づくり 『みんなの森プロジェクト』



森をフィールドに協業

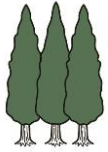


脱炭素×森の未来づくり 「みんなの森プロジェクト」

大分県 田島山業株式会社 / 田島 大輔

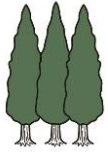
NO. 1

田島山業株式会社



■大分銀行主催 脱炭素セミナー 2023.09.04





■大分県 新長期総合計画策定「未来創造部会委員」選出 2023.09.06～

委 嘱 状

田島 大輔 殿

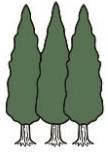
貴殿を「大分県新長期総合計画策定県民会議」委員に
委嘱する

委嘱期間 令和5年9月6日から
令和7年3月31日まで

令和5年9月6日

大分県知事 佐藤 樹一郎





■アトツギアワード2023 グランプリ受賞 2023.11.25

アトツギアワード
2023
グランプリ
受賞者決定

イノベーション部門
株式会社 Aster CEO
鈴木 正臣氏

ロングターミズム部門
田島山業株式会社 統括本部長
田島 大輔氏

Vision

豊かな森を未来につなぐ

森の新しい価値を見出し

林業経営を赤字⇒黒字収支に変える

2004/11

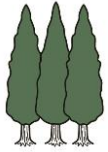
とある九州地域 2004年航空写真

2022/5

とある九州地域 2022年航空写真

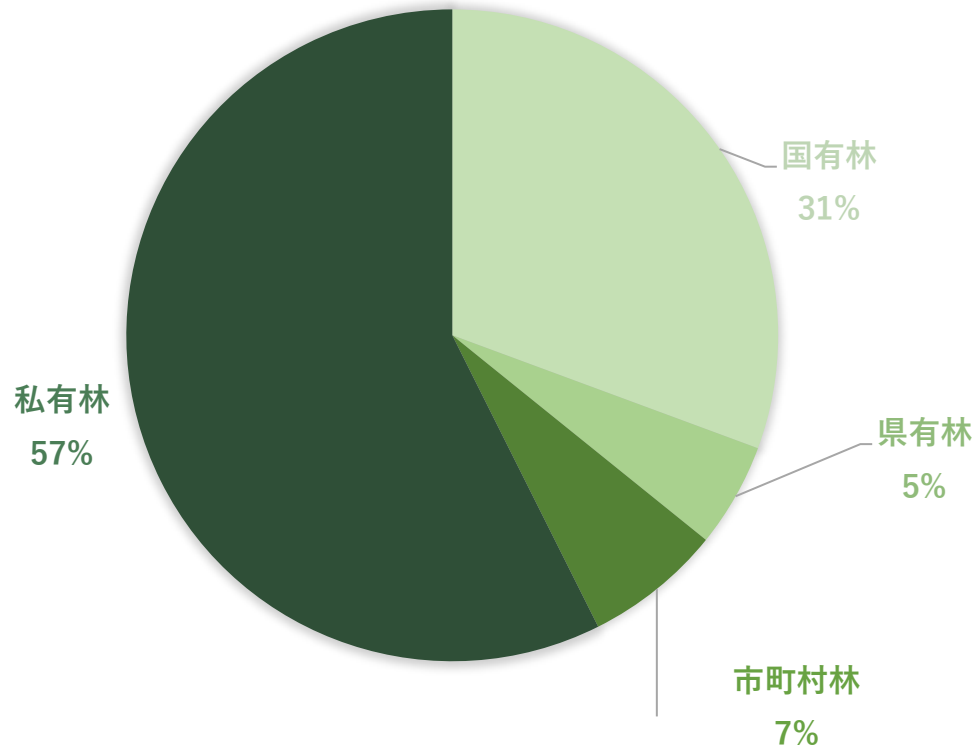
3割

Google Earth

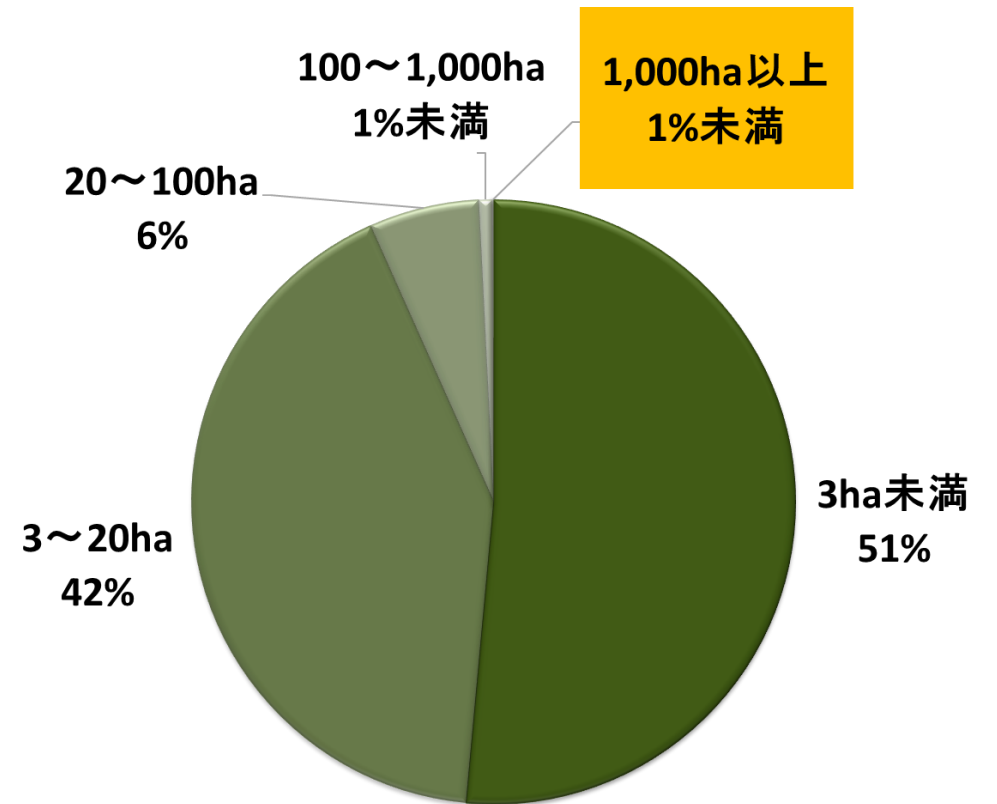


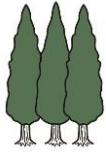
日本の森林は誰のもの？

- 全体の43%は公有林(国・県・市)
- 全体の57%は私有林(田島山業含む)



- 大規模所有者かつ専門林家は、**全国で10者未満**
※田島山業は1,000ha以上管理する専門林家





田島山業は、鎌倉時代から山を守ってきた専門林家です

田島山業が所有する山林の面積

1,200 ha

(東京ドーム260個分)

北部九州
最大級

J-クレジットの認証量

4,000 t

(年間創出量)

民間企業で
全国第4位

広葉樹の植林面積

50 ha

(東京ドーム10個分)

全国第1位

歴史

800 年前

(地域史より)

鎌倉時代から
つづく林家

再造林率

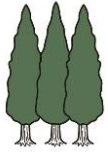
100 %

(全国平均：30%)

伐ったら
必ず植える

SDGs分野の
取り組みの一環に

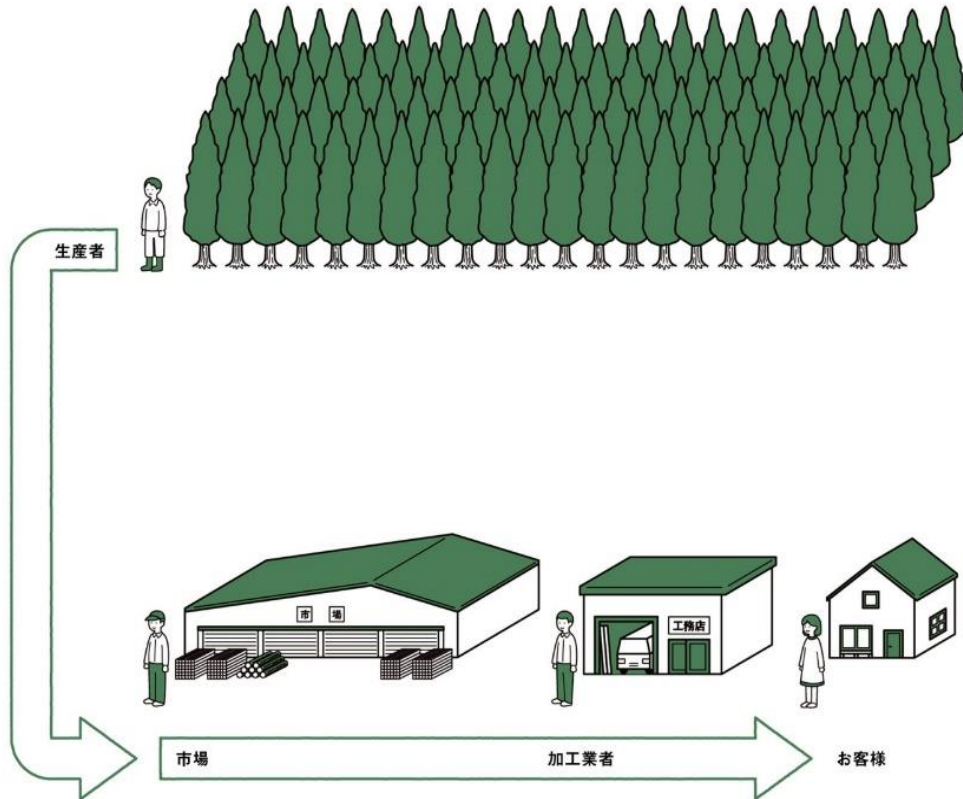




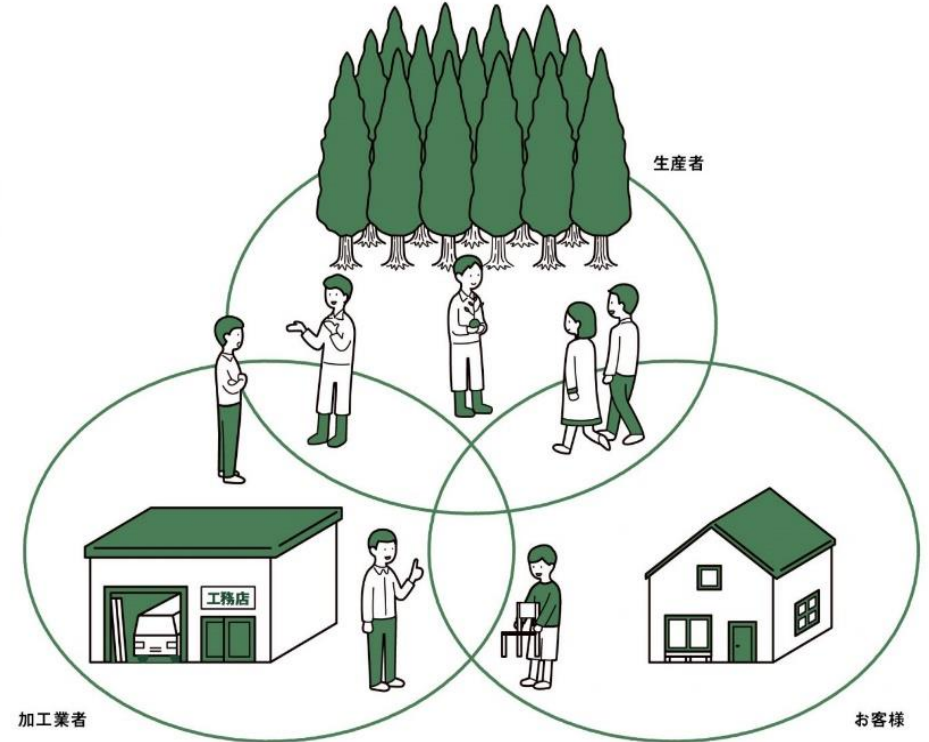
林業の6次化に取り組んできました

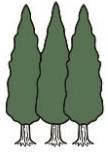
従来の木材市場販売から、直接顔の見える販売へ、新しい流通と関係性の構築を進めてきました。

かつての、顔の见えない林業



田島山業の、顔の見える林業

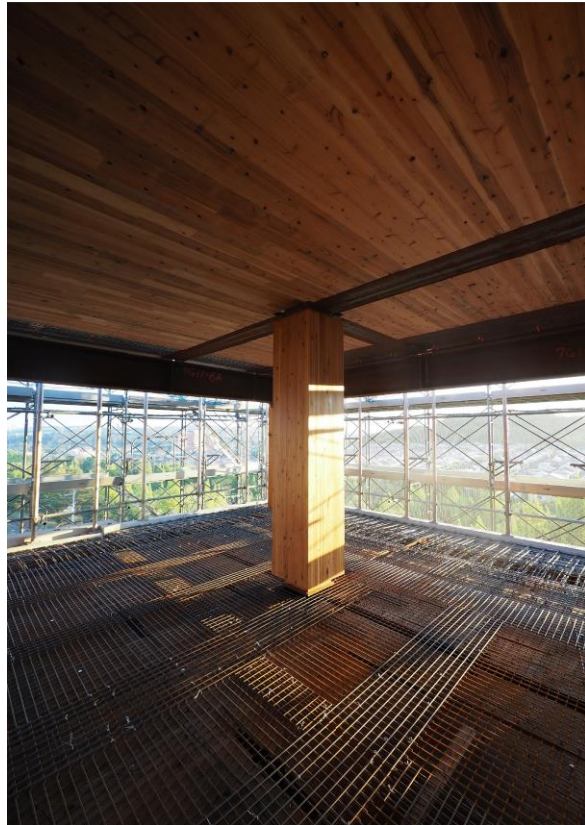
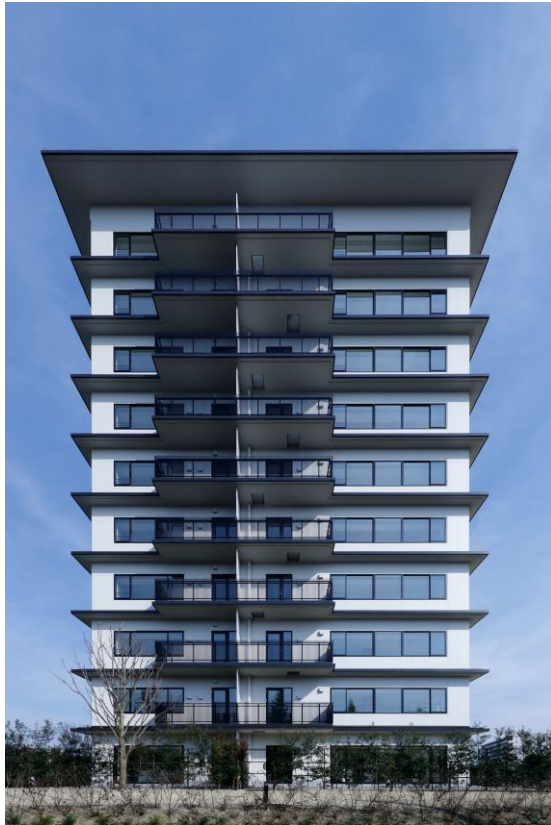




ウッドデザイン賞・2019年最優秀賞

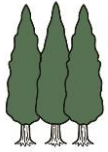
『日本初となる中高層木造ハイブリッド建築を実現する技術の実証』

三菱地所様・竹中工務店様・山佐木材様・田島山業にて協業。弊社は木材を丁寧に伐採してお届けしました。



A photograph of a dense forest with tall, thin trees. Sunlight filters through the canopy, creating a dappled light effect on the forest floor. The ground is covered with green undergrowth and fallen branches. The overall atmosphere is serene and natural.

しかし



令和2年7月豪雨での甚大な被害

線状降水帯で、田島山業の管理山林**116**箇所の崩壊が発生。
 木材販売のみで森を守ることはもはや限界を感じ、
新しい挑戦に至ります。



Yahoo!ニュース TOP欄に掲載。

ニュース 経済 エンタメ スポーツ

9/14(月) 12:52更新

- ・岸田・石破氏 2位争い横一線 **NEW**
- ・合流新党 幹事長に福山氏内定 **NEW**
- ・京都朝鮮学校ヘイト 控訴棄却
- ・米航空の日本人CA 失職の恐れ **NEW**
- ・キャンプ 安易な森林購入警鐘 **NEW**
- ・**収入0の林業社長 大木と格闘**
- ・大坂なおみ世界ランク3位浮上
- ・キンプリ岸 おバカー本体制

もっと見る トピックス一覧

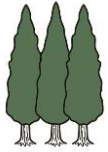


7月の豪雨によるスギの被害状況を調べる田島信太郎さん=3日、大分県日田市中津江村



森を守るために
発想を変える





社会や企業に森がどう貢献するか



企業

脱炭素

生態系保全

人的資本

水源の保全etc.

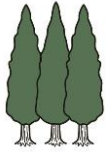


森

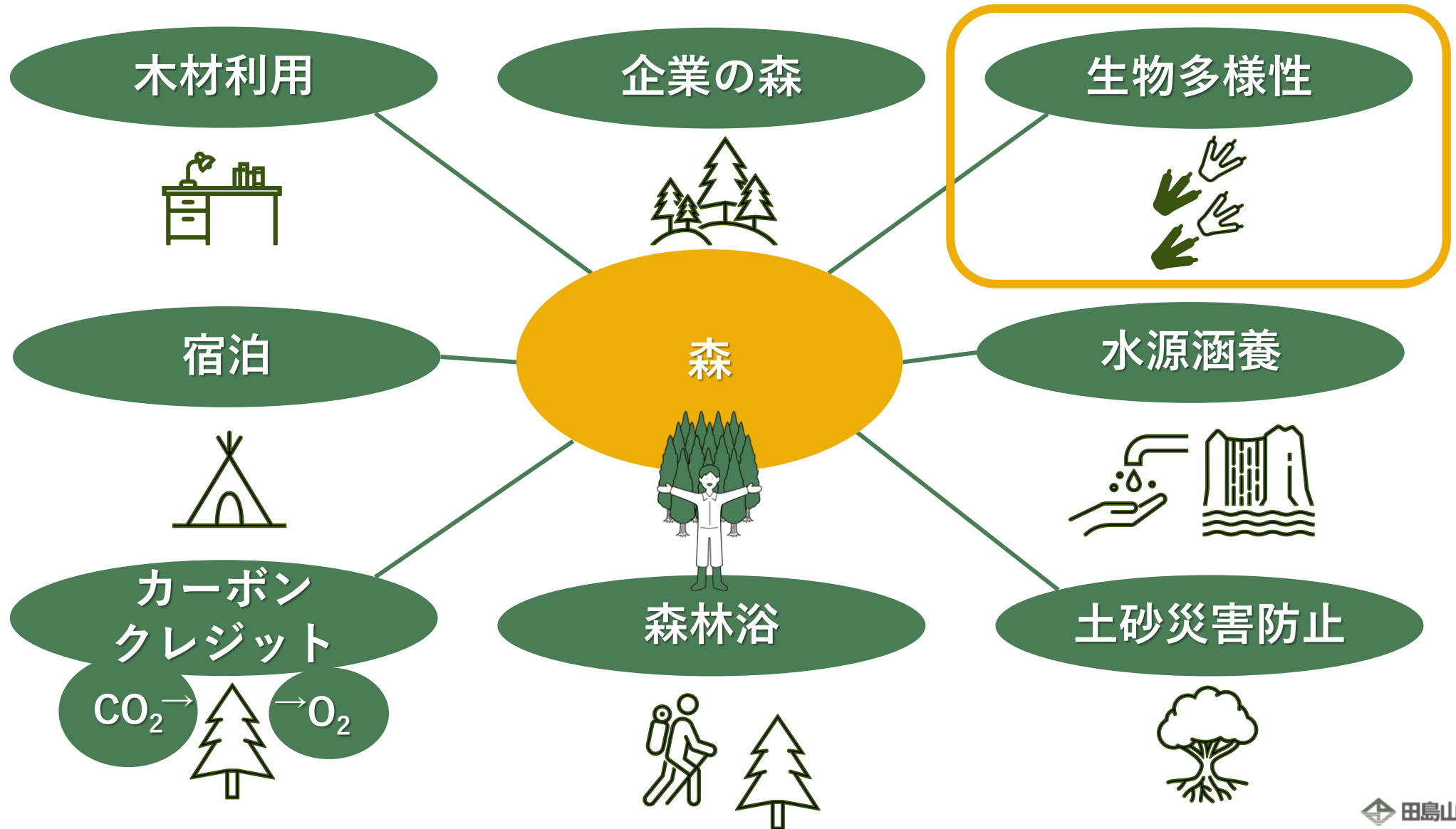
森の多面的機能

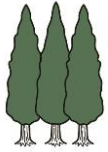
全ての課題を解決する





森林の多角化経営 価値のビジネス化



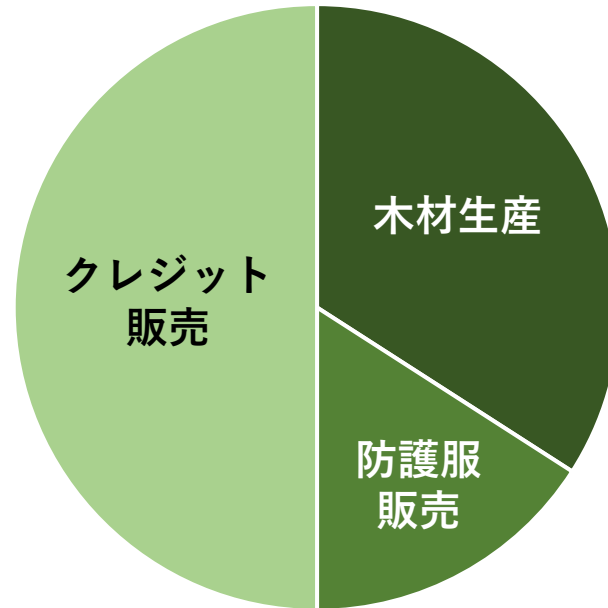


田島山業の売上構造について

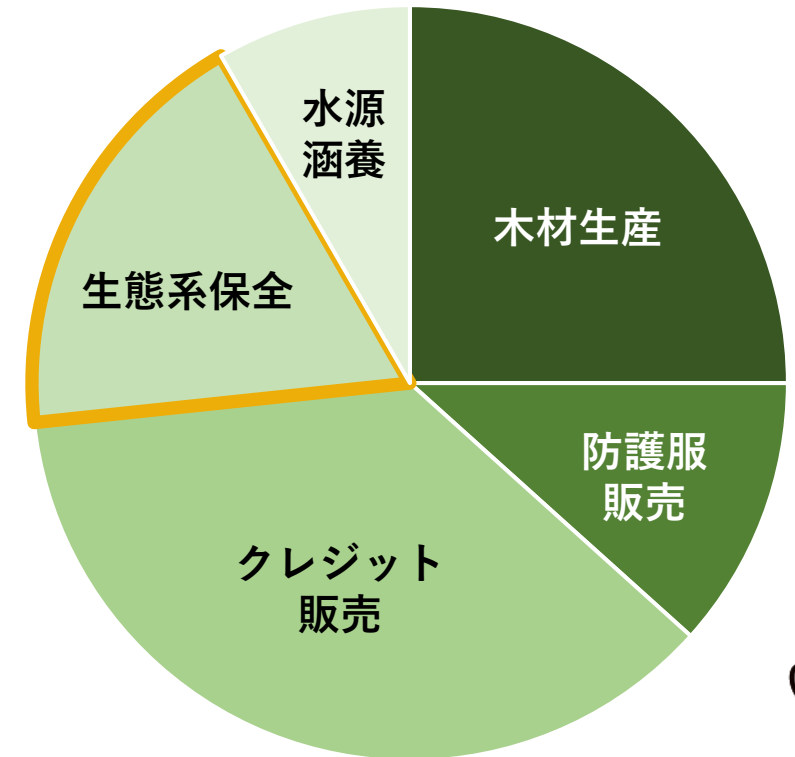
現在

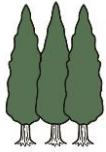


2025年



2030年





R5年度 自然共生サイト申請・審査概要



- 令和5年度前期の結果が公表され、後期の申請受付も終了した状況。
- なお、令和5年度前期の認定試行における、申請者属性は以下のとおり。

申請審査のスケジュール

■「前期」スケジュール

【申請受付】 4月3日～5月8日

【事務局予備審査】 5月～7月頃

【有識者審査】 8月中旬頃

【結果公表】 10月6日

■「後期」スケジュール（予定）

【申請受付】 9月12日～10月13日

【事務局予備審査】 10月～11月頃

【有識者審査】 12月～1月頃

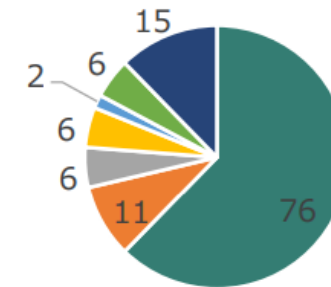
【結果公表】 2月頃

令和5年度前期申請者属性

認定数
122件

申請主体区分

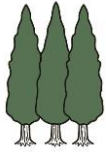
- 企業 *1
- 地方公共団体
- NPO・NGO
- 教育機関 *2
- 個人
- 合同申請
- その他団体 *3



*1 企業： 株式会社(75件)及び合同会社(1件)
※内53件が上場企業

*2 教育機関： 大学及び幼稚園

*3 その他団体： 財団法人、社団法人、研究開発法人
及び任意団体



R5年度「前期」 自然共生サイト申請書類



3. サイトの生物多様性の様子

価値 (3) 里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

地域史によると、田島家は鎌倉時代から当地で森を守ってきたと言われている。江戸時代、日田は天領として幕府に管轄されており、幕府の植林奨励によりスギが大量に植えられてきた歴史を持つ。

サイトは 林業施業地として従来から田島山業(株)が管理してきた森林地帯。適切な間伐を実施したスギの二次林・人工林(写真)であり、下層植生に富んでおり、沢が流れ、生物多様性を保全している。

【主な植生】

江戸時代(推定)からスギが植林され、持続的に維持管理されてきたスギを中心とする森林。間伐を繰り返したことで、スギの間に自然と広葉樹が育ち、下層植生にも富んでいる

【確認された主な動植物】

- 植物：高木はモミ、ハンノキ、ネムノキ等。下層植生はイヌザンショウ等の低木類、ウツボグサ、ドクダミソウ、ケキツネノボタン等の草本類、ハリガネワラビ、ツルハシゴケ属等のシダ・コケ類等。
- 動物：イノシシ、ノウサギ、鳥類、カワトンボ等

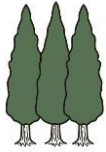
今後、東京大学、大分大学、大分県等と連携して、生態系の調査を実施する予定。



写真の撮影年月：R5年4月
写真の説明：適切な間伐を実施したスギ林。下層植生に富む。



写真の撮影年月：R5年4月
写真の説明：サイト内に流れる沢（筑後川の水源）



R5年度「前期」 自然共生サイト申請書類



3. サイトの生物多様性の様子

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは 林業施業地として従来から田島山業(株)が管理してきた森林地帯。

■供給サービス

サイト内の湧水群は、古くから地域の飲料、水田耕作に利用され、また筑後川の源流であることから、下流域の生活や工業活動を支えている。また、適宜伐採を行うことで、木材供給を担っている。

■調整サービス

J-クレジット制度において、当該森林を対象地を含め、カーボンクレジットの創出を行っている。また、適切な間伐を実施してきたことで下層植生に富み、水源涵養機能を果たすことで、水源林として降雨時に自然のダム機能を担っている。

■文化的サービス

適切な間伐を繰り返してきた大木が育つ森で、癒しや健康の場としての利用を行っている。

【主な植生】

江戸時代(推定)からスギが植林され、持続的に維持管理されてきたスギを中心とする森林。間伐を繰り返したことで、スギの間に自然と広葉樹が育ち、下層植生にも富んでいる

【確認された主な動植物】

➢ 植物：高木はモミ、ハンノキ、ネムノキ等。下層植生はイヌザンショウ等の低木類、ウツボグサ、ドクダミソウ、ケキツネノボタン等の草本類、ハリガネワラビ、ツルハシゴケ属等のシダ・コケ類等。

➢ 動物：イノシシ、ノウサギ、鳥類、カワトンボ等

今後、東京大学、大分大学、大分県等と連携して、生態系の調査を実施する予定。



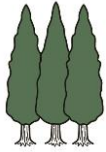
写真の撮影年月：R5年4月

写真の説明：適切な間伐を実施したスギ林。下層植生に富む。



写真の撮影年月：R5年4月

写真の説明：サイト内に流れる沢（筑後川の水源）

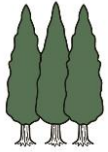


R5年度「前期」 自然共生サイト申請書類



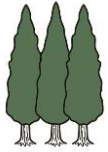
4. サイトの管理計画・モニタリング計画

| 管理計画の内容 | モニタリング計画の内容 |
|---|--|
| <p>【管理計画の内容】</p> <p>森林経営計画に基づいた森林施業 / 管理を行っていく。</p> <p>森林の持つ多面的な機能の発揮策については、下層植生の生育を促す管理手法として、間伐等を実施するにあたっては、作業上障害となる下層木を除いては極力残し、生物多様性、治山治水、CO2吸収機能向上のための事業を推進する。</p> <p>木材の生産のみならず、多面的な機能を重視した森林づくりに努める。そのための方策として、経営上においては、皆伐は極力抑えていくが、風害倒木林分、成長の望めない林分等が見られるところは改植を行い、適地適木により広葉樹等も植栽する。</p> <p>長伐期を目指した間伐においては、生物多様性と公益性重視の観点から、林内照度向上と地力改善の管理手法を用い、その際、林縁木、谷筋、尾根筋に現存する広葉樹等は極力保存し、複合的な機能を総合的に発揮させるための森づくりに努める。</p> | <p>【モニタリング対象】</p> <p>スギ、ヒノキ等の立木の育成状況、水源・沢の状況の調査 生態系の調査</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>サイト全域</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>現地での踏査</p> <p>【実施時期及び頻度】</p> <p>1年に1度</p> |
| <p>森林経営計画内の申請サイトについて、以下の管理を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 1年に1回程度、エリア内の巡視を行い、人為的な攪乱が生じていないことを確認する。 ➤ 湧水について、水生生物の生息に適した環境を維持する。 ➤ 適宜間伐を行い、下草が繁茂する環境を維持する。 | <p>【実施体制】</p> <p>サイト管理者にて実施し、適宜連携団体（企業等）・有識者（大学等）から助言を頂く。連携団体である LINE ヤフー株式会社とは参加型のモニタリング調査を実施予定である。</p> |
| <p>【脅威への対応】</p> <p>周囲の人口減少に伴い、シカの個体数が増加しており、シカの侵入によるスギの樹皮がはがされる被害が増えている。現在は、猟師の協力により被害を出来る限り抑えている。</p> | |



環境省による田島の森の認定 企業とのマッチング





生態系専門家との調査 2023.10.06



大分県 2022年レッドデータブック 準絶滅危惧種発見(アケボノソウ)



豊かな地球を未来につなぐ



林業



森

産官学



動植物
水・空気

